

あいのその 2023年10月号



「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。」(ヨハネによる福音書 15章 5節)

愛の園保育園 042-325-1045

ぶどうの季節ですが、高級ぶどうのシャインマスカットが異例の安さ、というニュースを目にしました。一房 4000~5000 円もするイメージでしたが、今や最安値で 400~500 円という驚異の価格帯とのことですから驚きです。理由はいろいろあるそうですが、味や品質には問題ないとのことですから、栽培をしている農家の方によれば、価格が安くなることでより多くの人に食べてもらえたら、とのこと。それにしても、あまりに安くなりすぎるのもちょっと心配(笑)

ところで、ぶどうは聖書の中で頻繁に登場する、たとえ話の題材のひとつです。それは、ぶどうが聖書の舞台であるパレスチナ地方において、いたるところに栽培されていた植物だったからであり、人々にとって大変身近な食べものだったからです。また、旧約聖書において「ぶどうの木」はイスラエルの民をたとえており、それを育てている主人は神を指しています。ぶどう畑の経営は非常に手間隙のかかる仕事であり、維持していくためには周到な準備と多大な労力を注ぐことが求められました。つまり、神がイスラエルの人々を守り育てるためにどれだけの労力、犠牲を払ってくださったか、という意味を込めてこの比喻が用いられていたのです。

しかしこれが新約聖書においては、イエス・キリストがぶどうの木であり、あなたがた(信じる人々)はそのぶどうの木(=イエス)につながる枝なのだといいます。これはつまり、イスラエルという民族やその民族独自の掟を遵守すること、という特定の条件によって神の祝福は受け継がれていくのではなくて、どんな人種・民族・出自の人であろうとも、イエス・キリストにつながって実を結ぶ者こそが救いに与ることができるのだ、ということを示すものでした。神の救いは血統によるものではないということが明確に宣言されたのです。

イエス・キリストはぶどうの木として、自ら私たちひとり一人をご自分としっかりと結び付けてくださっているという。なぜか。それは、そうしなければ、私たち人間は勝手に神から離れていってしまう者だからです。たとえば私たちが、小さな子どもたちの手を取り、その手と自分の手をしっかりと繋いで歩くように、イエス・キリストもまた、私たちを神の愛としっかりとつないでくださっているのです。

(牧師 西脇 正之)